

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	令和6年 8月 27日	評価結果市町村受理日	令和6年 10月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 9月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地がとてよく、国道1号線と狐ヶ崎駅の間にありアクセスしやすいです。また、天気の良い日には2階から富士山を眺められるほか、施設向かえには公園があり自然にも恵まれた静かな環境です。自治会との交流を積極的に行っているため、夏祭りや子供神輿等、施設外でのイベントでの楽しみもあり、顔馴染みの関係も構築できています。

食には特に力を入れており、手作りおやつや日頃の食事を入居者様と作ったり、畑での野菜作りや田んぼでの米作りを通して季節を感じて頂きながら作る喜び・食べる楽しみを味わって頂いております。

経営理念である「生き生き生きる」を実現するために、入居者様一人ひとりの楽しみや想いに寄り添い職員間で共有するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡県内に5か所のグループホームを運営するNPO法人が母体となり、災害時には備蓄品の融通を行うなど複数施設を運営するメリットを活かしている。ホームは夏祭りなど、地域が行うイベントへの参加やホームが行う盆踊りなどに地域住民が参加するなど地域と良好な関係となっている。法事など親族での行事に対してはコロナ禍の際も、条件付きではあるが家族による面会や外泊・外出ができるように支援している。また必要があれば送迎の支援を行うなど、利用者の今を大切にしたい思いが強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「生き生き生きる」を実現するために今年度は施設目標として、資格取得や折り紙教室、認知症サポーター等の受講を職員も積極的に行い、入居者様が安心して楽しく過ごせる環境を整えるために努めている。	理念は利用者や職員が生き生きと生活できる場(ホーム)となることを目標としている。また理念実現に向けて毎年重点目標を掲げている。今年は得た知識を利用者に還元することを目標に「職員の資格取得」を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設向かえの公園への散歩等を通して閉ざされた環境にならないようにしている。また、自治会との交流もあり、子供運動会や夏祭り等施設外でのイベントにも参加している。	地域のイベントに参加するだけでなく、ホームが行う盆踊り大会に地域住民の参加がある。台風の際は水害対策として地域住民の自動車の一時避難所として開放するなど良好な関係が確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に来て頂き、地域参加の盆踊り大会を行ったことでグループホームでの活動や認知症についての理解も地域住民の方に発信できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターやご家族様、自治会長様等に参加して頂き、施設のイベントや取り組みについて動画を交えて報告させていただいている。またそこでいただいたご意見については職員とも共有し施設サービスに反映できるよう努めている。	会議は家族が参加しやすいよう日曜日の開催を行うなどの取り組みがある。また家族へ開催の案内とともに意見を求める書面を送付している。会議では身体拘束廃止委員会を併催することでホームの考え方を地域に知ってもらう機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や書面等でのやりとりを行っている。また、介護相談員様を通し、取り組みについても発信するだけでなく、改善点や第三者視点で感じたことを得ることで施設サービスに活かしている。	会議録など各種提出書類はホーム長が直接持参し、直接質問を行うなど顔が見える関係を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員間でも身体拘束についての勉強会を2ヶ月毎に行い、知識の向上と再確認を行っている。勉強会の内容については、ご家族様にも発信し面会時や運営推進会議時等に意見を頂き職員間で共有している。	ホームは身体拘束を行わない方針としている。身体拘束廃止委員会では、委員以外に地域役員などが参加し広く意見を聞くと共に、制度説明やホームの方針を共有している。さらに毎月開催する職員定例会にて、利用者の個別対応について話し合いの場を設けている。	身体拘束廃止委員会議事録の参加者欄について、委員と委員以外の参加者が区分けされることなく記載されている。参加者の明確化を図るため区分けしての記載がなされるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に施設内で定期的に勉強会をおこなうとともに家族への発信も行っている。また、本部には相談窓口を用意し施設内だけでなく法人全体を通して注意を払って防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している入居者様がいることもあり、情報提供等もを行っている。今後も必要性が出てきた場合にはご本人様やご家族様、関係者様と話し合いを進めながら活用できる様に努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等については書面を用い口頭での説明を行っている。また、改定等必要な場面が出た時際にも随時説明を行っている。疑問等があった際には具体例や実例を交える等して理解を頂いた上で同意して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に意見を聞く時間を設けている。また、面会時や電話連絡時等にも要望があれば、職員と共有するよう努めている。入居者様についても買い物などの希望があれば、ご家族様に許可をとり自身で欲しい物を選んで頂く等なるべく要望に応えられるよう努めている。	利用者や家族からの意見は面会時や日々の生活の中で職員が聞き取りを行っている。聞き取った内容は申し送りノートに記入し共有と検討が行われている。要望として面会や食事の内容など個別の内容が多く寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員自身のモチベーションやスキルアップにつながるため、入居者様に危険や問題のないものについては積極的に反映している。また、定期的な面談を行うことで職員の意思も確認している。業務に関する事についても定例会で意見を出し合いその時の最善を採用している。	定例会やホーム長が定期的または随時職員に声をかけることで意見を言いやすい環境となっている。職員の意見により流しそうめんのイベントに本物の竹を使用するなどの実例を確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成前に休み希望の確認を行うことでプライベートの充実を図り、メリハリをつけている。法人で表彰式を年に1度行っており職員個々の努力や実績に対してもしっかりと評価できるようにしている。感謝の気持ちを率直に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な本部研修に加え、テーマごとの勉強会を毎月行っている。また、新人教育についても管理者のみが行うのではなく全職員が協力して行い自身のスキルの再確認にもつなげている。法人外では資格習得をはじめ、認知症サポーターの受講を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症が流行する前にはお付き合いのあったグループホームと連絡をとる機会があった。感染症対策の面などいくつか解決しないといけない問題はありますが今後は入居者様同氏の交流も深めていきたいと模索中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで得られたことは職員全員で共有し、出来る事は日課として取り入れるよう心掛けている。特に初期に関しては環境の変化も不安要因の1つになる事もあるため、優しく安心感のある声掛けの中から要望や困っている事を傾聴できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや要望等については入居前から話し合いを行っている。面会の中で解決が出来ているかについてもご家族様と話し合い不安の解消にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で優先すべきを入居者様、ご家族様と話し合いサービスに反映させている。また、支援の中に必要であれば主治医の検討や、歯科医、理美容のサービスについてもベストを選択するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてを行うのではなく、入居者様自身の出来ることを維持しながら畑の水やりや、食器拭き等日課を通して生きがいややりがいを感じて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後についても定期的な連絡やお手紙を送付して入居者様の日々の状況をご家族様とも共有している。家族の絆を大切にする意味でも面会だけでなく、希望があればご家族様との外出、外泊等も行っていたいっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	畑をやっている入居者様は週に1回畑に行くことを継続してご本人様の生きがいになっている。また、面会や自宅への外泊や月に1度のお手紙を通してご家族様との関係を継続しています。	利用者の今を大切にしたいとの思いから条件付きだがコロナ禍であっても外出や外泊が行える体制とし、必要に応じて職員が送迎などの支援を行っている。毎月利用者の様子を記した手紙やアルバムを送付する取り組みを実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者様同士の会話のきっかけ作りを行なっています。また、裁縫等共通の趣味のある方についても道具の準備をするなどし、共に同じ時間を作れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居していた方の御家族様とも現在も交流があり、夏にはボランティアで盆踊りに参加して下さります。 退去後にも知人の紹介等頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や入居後の会話の中から得た希望や意向を共有し、出来る限り希望や意向に沿った形で生活できるよう努めています。	タブレットで記録し情報共有を図っている。声かけ時や食事介助の際に、表情から意向等を把握に努めている。面会時や家族の差し入れからも情報を集めている。入居前から行っている個々の希望は継続している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント等を通し、可能な限り把握に努めています。特に趣味や楽しみについては、入居後も継続できるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりに合わせた生活が出来るよう、心掛けています。朝礼時には心身状態等申し送りし、職員間で情報を共有しています。入居者様にあったお手伝いをお願いすることでご本人の有する力の把握と維持も行っていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定例会時に行い職員同士で意見を出し合っています。また、日々の変化については主治医とも共有し、ご家族様の意見と合わせながら介護計画を作成しています。	定例会を毎月行い、記録の情報から状態の変化に対応している。月2回の主治医の往診時に、家族の意向も確認し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使い日々の様子を記録しています。また、普段と違うケアが必要になった際には、タブレット記録だけではなく口頭でも伝え、職員間で情報の漏れがないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の細かな変化にも目を配り、それぞれの入居者様に合った対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力のもと子供神輿やどんど焼き、納涼祭等に参加させて頂き、入居者様もとても楽しんでいます。また、ボランティアによる盆踊り大会や、向かえの公園での散歩等自治会以外でも交流を持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者様は主治医が月に2回往診に来て現状についての確認や定期的な血液検査等を行っています。また、昔からの馴染みのかかりつけ医を希望している入居者様については、御家族様と協力しながら受診に行っています。どちらについても協力関係を築きながら安心して生活できるよう対応しています。	月2回医師の往診があり、週1回訪問看護の体制がとられている。利用者の状態を伝えすぐに対応している。入居前からの病院へ受診されている方は、家族が同行し受診対応をされている。文章と口頭の両方で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に1週間の様子を伝え、バイタル等も踏まえ専門分野からのアドバイスも貰っています。また、主治医との連携もある為看護師から医師への伝達もスムーズで何かあってもすぐに対応できる状態になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者やご家族様と定期的に連絡を取り、入居者様にとってのベストを共に考えるよう努めている。そこでの情報を主治医とも共有し、退院後の生活がなるべく早く普段通りになるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と実際に終末期を向かえた際では気持ちや考え方も変わることもあるので、入居時だけでなく体調の変化時、実際に終末期を向かえた際等に意向を再確認しています。そこで得た意向については職員や主治医とも共有し出来る限り希望にそえるよう努めています。	入居前に看取りの確認をし、状態に変化があった時は家族へ連絡をとる体制を整えている。記録した情報は医師へ報告・対応をその都度、家族に意向の確認を図っている。訪問看護にて点滴や酸素などの対応も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通して通報訓練を行っています。また、紙ベースのマニュアルとタブレット内にデータがある為すぐに対応できるようになっています。また、何かあった場合、24時間連携している主治医と連絡をとり指示を仰ぐことが出来るようになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に3回は実施し、消火器の使い方、避難方法の確認、通報訓練等行っています。地震、火災以外にも台風(水害)時の2階への垂直避難訓練も行っています。	防災訓練は年に3回実施し新人職員には通報訓練も行っている。自治会と連携が図られており、地域防災への協力をもされている。備蓄を1週間が用意されており、過去の断水経験から、水の確保は十分されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけによって入居者様が不快な思いをしないよう心掛けています。言葉かけ次第ではスピーチロックにも繋がるため研修も定期的に行い、職員同士で注意し合える環境を作っています。トイレや入浴時のプライバシーについても配慮しています。	研修を行い、定例会では具体的な目標や事例をもとに勉強会が開催されている。言葉遣いに関しては職員間で注意しあえる環境を作ることや、言葉の言い換え等について話し合いの場を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望については声かけなどで伺っています。その中で出た思い希望は共有し、おやつ作りに反映する等、応えるようにしています。その他、行事や外出先についても入居者様と話をしながら決める事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けはするが強制するのではなく入居者様自身の生活リズムを崩さないように支援しています。その中で得たことは職員同士で共有するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に着る衣類の選択や確認を行っていただいたり、乱れがある際には声掛け介助を行い、綺麗で清潔さを維持できるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや混ぜる作業、食器拭き等入居者様の得意な事を一緒に行い、定期的なおやつ作りで食べたい物を手作りすることで作る楽しみと食べる喜びを提供しています。また、週に2回程あるリクエストメニューの日には、入居者様が食べたい食事の提供も行っています。	利用者のできる事に着目し役割を作り、一緒に準備できるように支援している。週2日の利用者のリクエストに応え、おやつレクリエーションとして一緒に作業している。毎年梅干しや干し柿、味噌作りをし食のレクリエーションは頻回にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては本部にて栄養バランスを考慮してオリジナルで作成しています。摂取量についても毎食記録し、食事量の少なかった際には原因を考え場合によってミキサー食や刻み食等、入居者様にとってベストを検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく入居者様自身で口腔ケアを行っていただき、しっかりと磨けていない時は介助を行っています。また、希望のある入居者様には定期的な訪問歯科で口腔内のチェックを行っています。また、口腔ケア後に洗口液を希望の入居者様は使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の排泄状況をタブレットに記録し、トイレ回数の少ない入居者様には声掛けを行い、失敗をなるべく減らし不快感を与えないよう努めています。	記録をもとに排泄状況を把握し不快がない状態で過ごすことができるように時間の調整もされている。夜間も睡眠状態に合わせて対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の時間を作るほか、朝食時には毎日ヨーグルトの提供を行っています。腸の活動を促せるよう運動についても日々行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に意思の確認をしています。希望に沿わない場合は、時間や日を改める対応をしています。また、入居者様の希望に合わせて見守りの距離をとる等羞恥心にも配慮し、入浴して頂いています。	週2回の入浴であるが、利用者の要望により対応をしている。入浴時は安全に配慮しながら、見守りや羞恥心への配慮に留意している。季節感を味わえるように柚子風呂や入浴剤を利用し楽しい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様のペースに合わせています。仲の良い入居者様同士で寝る前にお話をする時間を作ることや、好きな飲み物を提供する等入居者様に合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に1度の医療連携と2週間に1度の往診時に状況を共有しながら、ご本人の状態に適した薬かどうかを常に検討しています。また、服薬時には職員同士で確認を行い誤薬のないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビールが好きだった入居者様には今でも夕食時にノンアルコールビールを提供しています。ピアノが得意な入居者様のために電子ピアノを置いています。苺が好きで入居者様のために苺を育て始めました。入居者様の楽しみを出来る限り取り入れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に玄関は解錠してある為、散歩や畑の水やり等入居者様のリズムで行える環境を整えています。また、定期的な聞き込みで遠くに行きたい希望等あれば、1つのイベントとして出かける様心掛けています。	利用者が食べに行きたい店やドライブ等、定期的に外出している。安全に配慮し外出できる環境を作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針として、基本的にはお金の持込はしていませんが、一緒に買い物に行った際にはご家族様の同意のもと、立替という形で希望のものを買うことが出来る体制はできています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や面会も可能ですし、ご家族様から電話があった際には入居者様と代わる等してご家族様とのコミュニケーションをとる時間を作っています。また、便箋を預かっている入居者様については、自身で書いた手紙を定期的に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の天気にあわせてエアコンの調整を行っています。また、いつでもベランダから畑を覗けるため、入居者様同士の共通の話題になりながら季節を感じて頂いています。その他、季節のイベントに合わせた飾り付け等も行っています。	季節に合わせた壁画を利用者と共に作成をしている。ベランダ下には畑があり、作物が育つ様子を眺めたり、会話を楽しんでいる。心地よい音楽も流れており、環境には配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを用意し入居者様同士が隣同士で会話出来る様に工夫しています。また、ピアノが得意な入居者様のために電子ピアノを置き、共用スペースでもマイペースで趣味に時間を使える様工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や配置は、入居者様とご家族様にお任せしています。後から入居者様が欲しい物が出来た時には、ご家族様と相談の上、用意してもらるか一緒に買い物に行き欲しい物を選んで頂いています。	自宅で使用していた布団や食器類等馴染みのある物を持参されている。足りない物は家族と共に買い物に出掛ける事もある。利用者には担当職員がおり、転倒防止に配慮し環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の洗濯や食器拭きは勿論、包丁の使える入居者様には野菜のカットをお願いしたり、流れの中で出来るものを出来る入居者様にお願ひし、出来ることの維持に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	令和6年 月 日	評価結果市町村受理日	令和6年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 9月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地がとてよく、国道1号線と狐ヶ崎駅の間にあるアクセスしやすいです。また、天気の良い日には2階から富士山を眺められるほか、施設向かえには公園があり自然にも恵まれた静かな環境です。自治会との交流を積極的に行っているため、夏祭りや子供神輿等、施設外でのイベントでの楽しみもあり、顔馴染みの関係も構築できています。

食には特に力を入れており、手作りおやつや日頃の食事を入居者様と作ったり、畑での野菜作りや田んぼでの米作りを通して季節を感じて頂きながら作る喜び・食べる楽しみを味わって頂いております。

経営理念である「生き生き生きる」を実現するために、入居者様一人ひとりの楽しみや想いに寄り添い職員間で共有するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「生き生き生きる」を実現するために今年度は施設目標として、資格取得や折り紙教室、認知症サポーター等の受講を職員も積極的に行い、入居者様が安心して楽しく過ごせる環境を整えるために努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設向かえの公園への散歩等を通して閉ざされた環境にならないようにしている。また、自治会との交流もあり、子供運動会や夏祭り等施設外でのイベントにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に来て頂き、地域参加の盆踊り大会を行ったことでグループホームでの活動や認知症についての理解も地域住民の方に発信できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターやご家族様、自治会長様等に参加して頂き、施設のイベントや取り組みについて動画を交えて報告させていただいている。またそこでいただいたご意見については職員とも共有し施設サービスに反映できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や書面等でのやりとりを行っている。また、介護相談員様を通し、取り組みについても発信するだけでなく、改善点や第三者視点で感じたことを得ることで施設サービスに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員間でも身体拘束についての勉強会を2ヶ月毎に行い、知識の向上と再確認を行っている。勉強会の内容については、ご家族様にも発信し面会時や運営推進会議時等に意見を頂き職員間で共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に施設内で定期的に勉強会をおこなうとともに家族への発信も行っている。また、本部には相談窓口を用意し施設内だけでなく法人全体を通して注意を払って防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している入居者様がいることもあり、情報提供等も行っている。今後も必要性が出てきた場合にはご本人様やご家族様、関係者様と話し合いを進めながら活用できる様に努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等については書面を用い口頭での説明を行っている。また、改定等必要な場面が出た時際にも随時説明を行っている。疑問等があった際には具体例や実例を交える等して理解を頂いた上で同意して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に意見を聞く時間を設けている。また、面会時や電話連絡時等にも要望があれば、職員と共有するよう努めている。入居者様についても買い物などの希望があれば、ご家族様に許可をとり自身で欲しい物を選んで頂く等なるべく要望に応えられるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員自身のモチベーションやスキルアップにつながるため、入居者様に危険や問題のないものについては積極的に反映している。また、定期的な面談を行うことで職員の意思も確認している。業務に関する事についても定例会で意見を出し合いその時の最善を採用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成前に休み希望の確認を行うことでプライベートの充実を図り、メリハリをつけている。法人で表彰式を年に1度行っており職員個々の努力や実績に対してもしっかりと評価できるようにしている。感謝の気持ちを率直に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な本部研修に加え、テーマごとの勉強会を毎月行っている。また、新人教育についても管理者のみが行うのではなく全職員が協力して行い自身のスキルの再確認にもつなげている。法人外では資格習得をはじめ、認知症サポーターの受講を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症が流行する前にはお付き合いのあったグループホームと連絡をとる機会があった。感染症対策の面などいくつか解決しないといけない問題はありますが今後は入居者様同士の交流も深めていきたいと模索中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで得られたことは職員全員で共有し、出来る事は日課として取り入れるよう心掛けている。特に初期に関しては環境の変化も不安要因の1つになる事もあるため、優しく安心感のある声掛けの中から要望や困っている事を傾聴できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや要望等については入居前から話し合いを行っている。面会の中で解決が出来ているかについてもご家族様と話し合い不安の解消にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で優先すべきを入居者様、ご家族様と話し合いサービスに反映させている。また、支援の中に必要であれば主治医の検討や、歯科医、理美容のサービスについてもベストを選択するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてを行うのではなく、入居者様自身の出来ることを維持しながら畑の水やりや、食器拭き等日課を通して生きがいややりがいを感じて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後についても定期的な連絡やお手紙を送付して入居者様の日々の状況をご家族様とも共有している。家族の絆を大切にする意味でも面会だけでなく、希望があればご家族様との外出、外泊等も行っていたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	畑をやっている入居者様は週に1回畑に行くことを継続してご本人様の生きがいになっている。また、面会や自宅への外泊や月に1度のお手紙を通してご家族様との関係を継続しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者様同士の会話のきっかけ作りを行なっています。また、裁縫等共通の趣味のある方についても道具の準備をするなどし、共に同じ時間を作れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居していた方の御家族様とも現在も交流があり、夏にはボランティアで盆踊りに参加して下さります。 退去後にも知人の紹介等頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や入居後の会話の中から得た希望や意向を共有し、出来る限り希望や意向に沿った形で生活できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント等を通し、可能な限り把握に努めています。特に趣味や楽しみについては、入居後も継続できるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりに合わせた生活が出来るよう、心掛けています。朝礼時には心身状態等申し送りし、職員間で情報を共有しています。入居者様にあったお手伝いをお願いすることでご本人の有する力の把握と維持も行っていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定例会時に行い職員同士で意見を出し合っています。また、日々の変化については主治医とも共有し、ご家族様の意見と合わせながら介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使い日々の様子を記録しています。また、普段と違うケアが必要になった際には、タブレット記録だけではなく口頭でも伝え、職員間で情報の漏れがないよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の細かな変化にも目を配り、それぞれの入居者様に合った対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力のもと子供神輿やどんど焼き、納涼祭等に参加させて頂き、入居者様もとても楽しんでいます。また、ボランティアによる盆踊り大会や、向かえの公園での散歩等自治会以外でも交流を持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者様は主治医が月に2回往診に来て現状についての確認や定期的な血液検査等を行っています。また、昔からの馴染みのかかりつけ医を希望している入居者様については、御家族様と協力しながら受診に行っています。どちらについても協力関係を築きながら安心して生活できるよう対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に1週間の様子を伝え、バイタル等も踏まえ専門分野からのアドバイスも貰っています。また、主治医との連携もある為看護師から医師への伝達もスムーズで何かあってもすぐに対応できる状態になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者やご家族様と定期的に連絡を取り、入居者様にとってのベストを共に考えるよう努めている。そこでの情報を主治医とも共有し、退院後の生活がなるべく早く普段通りになるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と実際に終末期を向かえた際には気持ちや考え方も変わることもあるので、入居時だけでなく体調の変化時、実際に終末期を向かえた際等に意向を再確認しています。そこで得た意向については職員や主治医とも共有し出来る限り希望にそえるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通して通報訓練を行っています。また、紙ベースのマニュアルとタブレット内にデータがある為すぐに対応できるようになっています。また、何かあった場合、24時間連携している主治医と連絡をとり指示を仰ぐことが出来るようになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に3回は実施し、消火器の使い方、避難方法の確認、通報訓練等行っています。地震、火災以外にも台風(水害)時の2階への垂直避難訓練も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけによって入居者様が不快な思いをしないよう心掛けています。言葉かけ次第ではスピーチロックにも繋がるため研修も定期的に行い、職員同士で注意し合える環境を作っています。トイレや入浴時のプライバシーについても配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望については声かけなどで伺っています。その中で出た思い希望は共有し、おやつ作りに反映する等、応えるようにしています。その他、行事や外出先についても入居者様と話をしながら決める事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けはするが強制するのではなく入居者様自身の生活リズムを崩さないように支援しています。その中で得たことは職員同士で共有するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に着る衣類の選択や確認を行っていただいたり、乱れがある際には声掛け介助を行い、綺麗で清潔さを維持できるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや混ぜる作業、食器拭き等入居者様の得意な事を一緒に行い、定期的なおやつ作りで食べたい物を手作りすることで作る楽しみと食べる喜びを提供しています。また、週に2回程あるリクエストメニューの日には、入居者様が食べたい食事の提供も行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては本部にて栄養バランスを考慮してオリジナルで作成しています。摂取量についても毎食記録し、食事量の少なかった際には原因を考え場合によってミキサー食や刻み食等、入居者様にとってベストを検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく入居者様自身で口腔ケアを行っていただき、しっかりと磨けていない時は介助を行っています。また、希望のある入居者様には定期的な訪問歯科で口腔内のチェックを行っています。また、口腔ケア後に洗口液を希望の入居者様は使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の排泄状況をタブレットに記録し、トイレ回数の少ない入居者様には声掛けを行い、失敗をなるべく減らし不快感を与えないよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の時間を作るほか、朝食時には毎日ヨーグルトの提供を行っています。腸の活動を促せるよう運動についても日々行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に意思の確認をしています。希望に沿わない場合は、時間や日を改める対応をしています。また、入居者様の希望に合わせて見守りの距離をとる等羞恥心にも配慮し、入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様のペースに合わせています。仲の良い入居者様同士で寝る前にお話をする時間を作ることや、好きな飲み物を提供する等入居者様に合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に1度の医療連携と2週間に1度の往診時に状況を共有しながら、ご本人の状態に適した薬かどうかを常に検討しています。また、服薬時には職員同士で確認を行い誤薬のないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビールが好きだった入居者様には今でも夕食時にノンアルコールビールを提供しています。ピアノが得意な入居者様のために電子ピアノを置いています。苺が好き入居者様のために苺を育て始めました。入居者様の楽しみを出来る限り取り入れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に玄関は解錠してある為、散歩や畑の水やり等入居者様のリズムで行える環境を整えています。また、定期的な聞き込みで遠くに行きたい希望等あれば、1つのイベントとして出かける様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針として、基本的にはお金の持込はしていませんが、一緒に買い物に行った際にはご家族様の同意のもと、立替という形で希望のものを買うことが出来る体制はできています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や面会も可能ですし、ご家族様から電話があった際には入居者様と代わる等してご家族様とのコミュニケーションをとる時間を作っています。また、便箋を預かっている入居者様については、自身で書いた手紙を定期的に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の天気にあわせてエアコンの調整を行っています。また、いつでもベランダから畑を覗けるため、入居者様同士の共通の話題になりながら季節を感じて頂いています。その他、季節のイベントに合わせた飾り付け等も行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを用意し入居者様同士が隣同士で会話ができる様に工夫しています。また、ピアノが得意な入居者様のために電子ピアノを置き、共用スペースでもマイペースで趣味に時間を使える様工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や配置は、入居者様とご家族様にお任せしています。後から入居者様が欲しい物が出来た時には、ご家族様と相談の上、用意してもらるか一緒に買い物に行き欲しい物を選んで頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の洗濯や食器拭きは勿論、包丁の使える入居者様には野菜のカットをお願いしたり、流れの中で出来るものを出来る入居者様にお願ひし、出来ることの維持に努めています。		